巻 頭 言

オンライン投稿と研究者の倫理

Online submission and ethics of researchers

江 藤 宏 美 (Hiromi ETO)*

日本助産学会誌は2017年よりオンライン投稿に完全にシフトしました。それに伴って、投稿規定や著者のチェックリスト等を見直し、改訂しました。ここに、オンライン投稿に伴う改訂点をお示しします。また、論文の投稿にあたって、順守すべき研究者の倫理も重要になってきます。今回、日本助産学会誌に二重投稿がありましたので、改めて研究者の倫理を振り返るとともに、日本助産学会の対応について記載し、注意喚起したいと思います。

1. オンライン投稿

2017年より、日本助産学会誌はオンライン投稿・査読システムを導入しました。みなさまの論文の投稿は、オンラインで受け付けます。詳細は、ホームページ「学会誌・刊行物」のバナー「論文投稿規程」より(<http://square.umin.ac.jp/jam/submission.html>)ご覧ください。投稿のためのマニュアルを掲載しておりますが、必要時、投稿論文についてのお問い合わせは日本助産学会誌編集事務局 (jjam-editorial@primeassociates.jp) で対応しています。

オンライン投稿・査読システム導入に伴って、あらためて投稿規程の見直しを行い刷新しました。以下、主な改訂点です。

倫理的配慮について：本学会誌の投稿者と査読者はお互いに特定されない、ダブルブラインド方式をとっています。よって、投稿時点では、投稿者の所属施設の名称等を明記せず、倫理審査承認番号のみとし、採択された後、最終原稿提出時に記載するという

ことを明記しました。

利益相反 (COI) について：投稿者 (共著者を含む) は、投稿時から過去1年以内で論文内容に関係した企業・組織または団体との利益相反 (COI) 状態を本学会指定の「利益相反 (COI) 申告書」に記載して電子投稿システムにアップロードする。また、開示すべき利益相反状態を論文本文末尾に明記するとしました。

著作権譲渡書について：投稿者は「日本助産学会著作権規程」を確認のうえ、投稿時に本学会指定の「著作権譲渡書」に記入後、各共著者が自署したものを電子ファイルとして保存し、電子投稿システムにアップロードするとしました。

原稿について：抄録・本文・文献にはすべて行番号 (各ページ振り直し) をつけることとし、査読時の指摘をスムーズにすることとしました。

本文中の引用文献の記載について：著者名、発行年次、場合によって引用頁かパラグラフ番号を括弧表記する。著者名は1名のみ表記し、それ以上は他 (英語文献の場合は et al.) とするとしました。

表紙について：表題 (和文・英文)、著者名 (ローマ字併記)、所属機関名 (英訳併記)、および連絡者の氏名、住所、電話番号、メールアドレスを記載するとしました。図表などの数は直接オンライン上に入力します。

システム導入に伴って、投稿手続きの簡素化が図られ投稿数の増加が見込まれます。また、査読に関しては、新規7人を加え、総勢80人の専任査読委員によって行われます。オンラインによるメールを介した査読依頼、返信が遅れた時のリマインダーなどにより査読の迅速化が期待されます。

* 日本助産学会誌編集委員長 (Chairperson of Editorial Board, Journal of Japan Academy of Midwifery)

2. 研究者の倫理：二重投稿

今年、日本助産学会誌に二重投稿がありました。本誌に投稿された後に査読中の過程で、他誌に同等の内容が掲載されていたことがわかりました。本人確認により、同等の内容であることが事実となり、理事会にて対応が協議され、以下の4点が罰則として定められました。

- (1) 当該投稿論文、及び当該投稿論文の(共)著者1名以上を含むすべての日本助産学会誌への投稿中論文の即時の査読取消
- (2) 投稿論文の全著者に対し、日本助産学会誌への2年間の投稿禁止
- (3) 同時に進んでいる投稿先がある場合は、二重投稿先に対する周知
- (4) 掲載後に発覚した場合は、掲載取消の周知文を日本助産学会誌上に掲載

ホームページ <http://square.umin.ac.jp/jam/submission.html> 【二重投稿に対する罰則について】に掲載しました。

また、投稿規程にも「8. 二重投稿の禁止」として、下記を明記しました。

「他の出版物に投稿、及び掲載されたものと同一内

容の論文を投稿しない。この場合、同一内容とは、記述言語を問わず、意味的に同一であることを示し、極めて類似した内容を含む。」

研究者の倫理に反する不正行為としては、今回のような同じ研究成果の重複発表（二重投稿）をはじめ、得られたデータの捏造や改ざん、他者の研究成果の盗用、不適切なオーサiershipなどが挙げられます。不正行為は、研究者自身の研究活動とその成果発表の信頼性そのものを揺るがすことになりかねません。CITI (Collaborative Institutional Training Initiative) Japan Programの受講や各機関での倫理セミナーなど積極的に参加しましょう。

新たな知識を生み出し、公に報告する活動をおこなっている研究者は、権威や利害から独立して真理を探究するという権利をもつとともに、専門家として研究活動の成果を誠実に社会に伝えるという責任があります。

本誌では自由で闊達な研究活動を推進するとともに、倫理的責任をもった研究者の支援をおこなっていきます。

みなさまの論文投稿をこころよりお待ちしております。